町内４団体からの声　新型コロナウイルス感染症と

那須町森林組合

現況は

- 住宅市場は今後確実に需要が落ち、建築用材は売れなくなる見通し。
- 建築用材の引き合いがなくなると、曲がり材、バイオマス材にも影響が出る。

三森康雄組合長　高根沢直明総務課長

対策は

- 組合員の利益を最重要視したい。
- 価格が下がる状況においては間伐、皆伐を含め作業見合わせを検討する。
- とちぎの元気な森づくり事業を利用し、通学路の整備や獣害の防除につながる里山整備を進め、代替作業を確保する。

今後の森林のあり方は

- 現在は山のふもとから山頂まで針葉樹で構成されている事が多いが、近年の異常気象による集中豪雨なども考慮し、根の張りが強い広葉樹の植林をしていくことも重要。
- 広葉樹を育成し、野生生物が生息できる環境を作るような構想も必要と考える。

要望は

- 林道作業道の復旧整備の負担金が生じているので、森林環境譲与税を林道整備に使うことができないか。
- 町内の人工広葉樹６００ha は福島原発の影響で用途が限られる。一度伐りなおし、価値ある広葉樹を再生する事が課題であり、森林環境譲与税をこの事業にも充てて頂きたい。

ＪＡなすの

菊地秀俊組合長

現況は

- 肥育農家や繁殖農家においても価格の下落による厳しい状況。
- 冠婚葬祭の自粛などにより花の需要が伸びず、半値近くまで落ち込んでいる。
- 米についてはこのまま自粛傾向が続くと在庫が増え、値崩れが生じないか懸念材料となっている。

対策は

- グループを挙げて花を飾ろうキャンペーンなど支援策を講じている。
- コロナ関連支援を各農家に対して広報やメール、窓口で情報提供、相談受付をしている。
- 給付金関係において周知を徹底し、農協が窓口となり、中央会が申請サポート出来る仕組みを作っていく。
- ＪＡ独自に年内３０００万円程度の対策予算を組み、農家支援を強化したい。
- 農作業の受託、耕作放棄地の利活用など、地域営農を支援していく。
- 外国人実習生の受け入れが出来ず困っている農家がいるが、10月位に第１期生の受け入れとなり、中央会を通じて申請等は済んでいる状況である。また一方でコロナにより失業した人を受け入れるなどの方向性についても検討していく。